

《今朝の聖書から》

『申命記』11:12 “その地は、あなたの神、主が顧みられる所で、年の始めから年の終わりまで、あなたの神、主の目が常にその上にある。” というのが新年の聖書箇所です。“その地”とは、どんな地でしょうか。この頃、イスラエルの人々は、約束の地カナンについて知ってはいました。経験はしていませんが、知っていました。出エジプトを成し遂げたときの指導者モーゼも、全ての人々がそのように思うことを確信していました。しかし、直面するのはイスラエルの民でありながら、おまけに約束された地なのに、それを信じられない人々の姿でした。モーゼの悩みの原因は、神様を信じられない人々の心にあったのです。次のその地はどんな地だと聖書は語っているのでしょうか。あなたの神、すなわち昔からの導き主で、今もあなたの神である主が、顧みられる地だということです。神様は、全ての人々には、あなたがたの神と仰いますし、信仰は一人ひとりの個人の心の中にある、主との関係であることを説明される時には“あなたの神”と言われます。顧みられるとはどんなことでしょうか。“心に留めて忘れない”という意味です。あなたの神が大切にされる場所にあなたがたを導くと聖書は言っているのです。そしてどんな様子かと言いますと、私たちが今、踏み出す一年のように、主の目が常にその上にあるところなのです。人の力がその上にあるのではなく、穀物が豊かである以上に、そこに住む全てのものを、もちろん人々を含めて全てのものを、顧みられるのですから、人々は不安を感じる必要はないのです。夢を持つのは良いこととは知っていますが、“うまく行かなかっただらどうしよう”と思い、その不安がだんだん大きくなるのを知っているのも、私たちなのです。そして、特に年の始めと終わりの時に、思いやすいのです。年の初めは、“今までの年が終り、新しい年が始まること”という時間的な連続だけではなく、新しい内容に踏み出すことも示しています。“去年は良かった”と思う人や“新しい年になったからといって”と思う人もいるでしょうが、教会に導かれる人々は違います。“びっくりするようなこともあるに違いないけれど、去年一年、新しい年が豊かなものでありますようにと、願ってきた”と言うことができますようにと、願ひましょう。

週報

2007年 1月 1日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎0543-45-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸